

平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立開成小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としています。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成28年4月19日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B〕
<ul style="list-style-type: none">・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

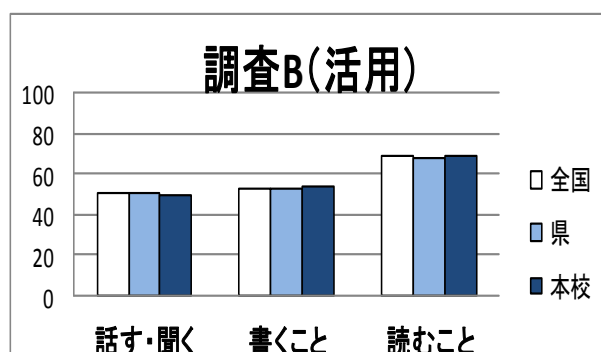
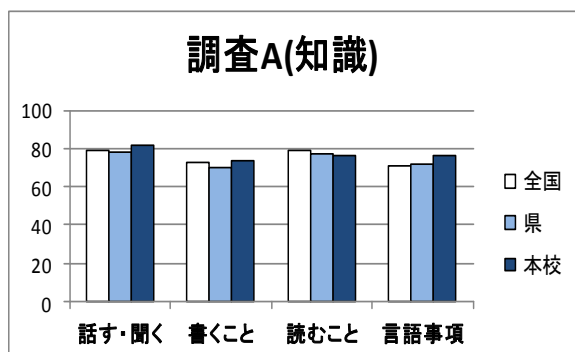
全国学力学習状況調査は小学6年生（中学3年生）と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数（数学）に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国 語

(1) 結 果

全国・県正答率との比較



調査A(知識)全体についての本校正答率は、76.1%で、全国や県と比較すると3ポイント以上上回っている。領域別に見ると、言語事項の領域で、全国及び県を4ポイント以上上回っている。調査B(活用)全体では、本校正答率は58.0%で全校や県とほぼ同等であった。領域別では、話す・聞くの領域で、全国を1.9%、佐賀県を1.2%下回っている。書くこと、読むことは、全国平均並みである。

(2) 成果と課題

話す・聞く

・質問の意図を捉える問題は、全国・県平均を上回っているが、目的に応じて質問したいことを整理する問題は、下回っている。見学やインタビューにおけるメモの取り方や質問の仕方を十分に指導する必要がある。

書 く

・委員会紹介パンフレット作成のための取材理由を書く問題やインタビューをする時、メモをもとにして話の展開に沿った質問を書く問題では、全国や県平均を下回っている。目的意識をきちんと持たせた取材活動にしていく必要がある。また、グラフや資料を基に考え、書く活動についても指導の改善が必要である。

読 む

・登場人物の人物像を説明するための根拠となる表現を問う問題は、全国・県平均を下回っている。授業をする上で、どのような人物かを考える時その根拠を文中から見つける活動等、授業の工夫・改善が必要である。

言語事項

・漢字の読み書きでは、書く・読む問題ともに、全国・県平均を大きく上回っている。しかし、ローマ字を読み書きが、全国・県平均と同様に低くなっており、家庭学習も含めての継続指導により定着を図る必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 読み語り活動を毎週月曜日に設定し、目標冊数の設定や図書館祭りなどを行い、本に親しむ児童の育成を目指しています。
- 日々の授業では、自分の考えを表現したり意見交流したりするなど児童同士が「伝え合う」授業を作り、表現する力やコミュニケーション力の向上を目指しています。
- デジタル教材や書画カメラを活用して視覚的にわかりやすい授業を仕組み、また、自分の考えを書くなどノート指導にも力を入れ、学習内容の確実な定着に努めています。

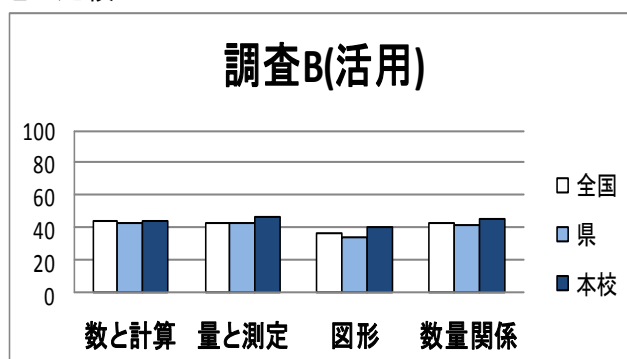
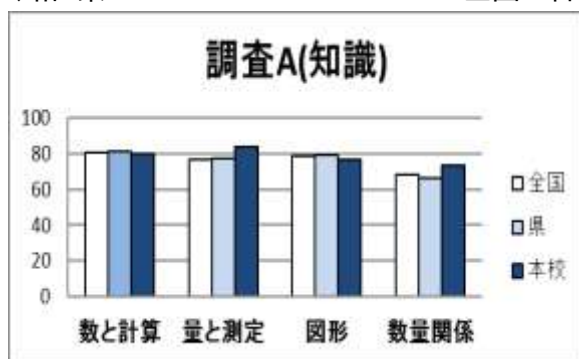
【ご家庭では】

- 音読は、読み方の工夫だけでなく、登場人物の気持ちの変化や著者が伝えたいことなどを考えながら読むことに挑戦してみましょう。読解力や語彙力の向上に役立つと思います。
- 今回の調査では、言語事項について大変よくできていました。より多くのジャンルの本をはじめ、新聞などにも目を通す習慣をつけたらよいと思います。また、新聞の内容や自分が関心のある事柄について辞書を使って調べるなど「自学」にも積極的に取り組んでみましょう。

2 算数

(1) 結果

全国正答率との比較



基礎的な知識を問う調査A及び活用力を問う調査Bとも全体についての本校正答率は、全国や県平均とほぼ同等の正答率になっている。領域別に見ると、数と計算が県平均・全国平均と同等の正答率になっている他、調査Bの量と測定領域、図形領域・数量関係領域の問題も、全国平均より3～4ポイント程高くなっている。

(2) 成果と課題

数と計算

・調査Aでは、わる数が1より小さい時、商がわる数より大きくなる問題が、全国平均より7ポイント程低くなっているがその他はよくできている。調査Bでは、示された式の中の数値の意味を解釈する問題が、県・全国よりやや低くなっており、無回答率も県平均より6.4ポイント高くなっている。今後は、式の意味も含めて記述式の問題における指導を充実させていく必要がある。

量と測定

・調査Aの単位量あたりの大きさの求め方の問題は、全国を大きく上回っている。調査Bでは、三角定規の内角がそれぞれ30° 60° 90° であることやこれをもとに式の意味を問う問題では、全国・県とともに本校の正答率も低くなっている。算数的な操作活動を取り入れるなどして児童の関心を高め、記述式の問題に意欲的に取り組めるように指導していく必要がある。

図形

・4枚の三角定規でできる形を選ぶ問題の正答率は70%台と高いものの全国平均よりやや低くなっている。調査Bでは、正方形に内接する円を描く時のコンパスの針の位置を問う問題は、80%以上の正答率であるが、今後も実際にコンパスや分度器等をきちんと使いながら問題を解く習慣を定着させる必要がある。

数量関係

・全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合を問う問題は、全国平均より高く、80%に近い正答率であった。しかし、グラフから本の貸し出し冊数を読み取り、それを根拠に示された事柄が正しくない理由を記述する問題は、全国・県平均とともに低く、筋道を立てて考える力を高める指導を充実させる必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 算数の基礎・基本の定着を主な目的とし、朝のスキルタイムに取り組んでいます。1～4年生は、計算問題を中心としたプリントを使ったり、5～6年生は「佐賀すくすくテスト」を活用したりしながら、基本的な計算力の確実な定着をめざしています。なお、今後は、活用問題にも取り組み、思考力の向上をめざします。
- 授業では、児童が考えを検討するための視点「算数の合い言葉」(ゆんたん・ゆつも使える・ゆいかく・はやゆ)を問題解決学習に生かしています。ノート指導では、板書の学習過程文字(ゆあて・ゆんだい・ゆとおし等)を用いて、学習の流れがわかる授業展開を心掛けます。
- 記述式問題の正答率が低いことを受け、自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりする場をより多く設定したりすることで、児童同士が学び合う授業作りをし、思考力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- 家庭学習として担任より、計算ドリルや算数プリントが出されています。また、単元ごとにテストも行われています。お子さんが何を学習されているか、理解できているか、時々見てあげましょう。家族の温かい見守りと励ましの言葉は、お子さんの成長に欠かすことができないもので、何よりの意欲付けになります。
- 算数で習った内容は、身近な生活に役立つものです。親子の会話の中にもどんどん取り入れていきましょう。ちょっと意識するだけで、算数好きになるきっかけができるはずです。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について・・「はい」「どちらかといえば はい」の割合》

調査項目	本校%	全国平均%
毎日同じくらいの時刻に起きている。	93.9	90.8
毎日おなじくらいの時刻に寝ている。	81.8	80.1
朝食を毎日食べていますか。	94.9	95.5
平日2時間以上テレビを見る。	52.5	57.1
平日2時間以上ゲームをする。(TVゲーム・パソコン・携帯型)	25.3	29.7
平日読書を30分以上している。	37.4	36.5
平日読書はまったくしない。～10分未満	30.3	36.5

毎日同じ時刻に起床し・就寝については、全国平均をやや上回っている。朝食については、全国平均とほぼ同等で高い摂食率であることが分かる。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを今後も継続して指導・啓蒙いくことが大切である。「テレビを2時間以上見ている」や「2時間以上ゲームをしている」が、全国平均より4～5ポイント低いことから今後も家庭への啓蒙が必要である。

平日の読書については、約40%の児童が30分以上読書をしている。10分未満の児童については、昨年度より10ポイント改善したが、更に読書時間が長くなるように、家庭と連携した取り組みを行っていくことが大切である。

《家庭学習の様子・・「はい」「どちらかといえば はい」の割合》

調査項目	本校%	全国平均%
平日2時間以上勉強している。	19.2	25.5
平日1～2時間勉強している。	33.3	37.0
平日0～1時間勉強している。	47.5	37.9
家で学校の宿題をしている。(どちらかといえばしているも含む)	92.9	97.0
家で授業の予習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	37.4	43.3
家で授業の復習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	47.5	55.2

家庭での学習時間は、全国の状況と比べて明らかに短い傾向が見られる。しかし、家で勉強する時間の割合は、昨年より各項目とも改善しており、「家庭ががんばり週間」などを今後も家庭と協力しながら継続して取り組み、家庭学習の習慣化を図っていきたい。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に宿題を出しています。授業で学習した基本的な内容や必ず身に付けておきたい内容を課題として取り組みせています。現在、自主学習(自学)については、3～6年で学年に応じた内容で取り組んでいるところです。
- 学習規律の定着にも力を注いでいます。学習用具等についての基本的な事柄のカードを教室に掲示し、意識付けを図っています。また、「立腰」にも取り組み、正しい姿勢と落ち着きのある態度の定着を図ります。
- 教室の環境整備に努めています。掲示物など刺激になりやすいものは、整理して掲示するなど学習環境のユニバーサルデザイン化を進めていきます。また、1～6年生までの学習内容のポイントを掲示した「算数ルーム」を作り、子どもたちがいつでも見られるような環境づくりに取り組んでいます。

【ご家庭では】

- 家庭学習の習慣をつけていきましょう。「家庭学習がんばり週間」等を利用して、宿題や自主的な学習、翌日の学習道具の準備などに自分から取り組めるようご家族の協力をお願いします。
- 家庭学習の時間帯、テレビやゲームなど音が出るものや気が散るものは、学習の妨げとなります。家族の協力が必要になります。静かな環境で学習に取り組めるようご家族の協力をお願いします。